

# 裏路地探険

ひなびた温泉地として知られる新温泉町の七釜温泉。昭和33年に旧浜坂町で初めて発見された温泉である。浜坂温泉郷（七釜温泉・二日市温泉・浜坂温泉と呼ばれる3つの温泉地のひとつだ。

泉質はナトリウムやカルシウムを含んだ硫酸塩高温泉で、傷の治癒効果が高く、集落内には温泉病院がある。保温効果も高いことから「こたついらすの温泉」と呼ばれて親しまれてきた。兵庫県内で唯一「国民保養温泉地」の指定を受けている。温度も約50度と適温なので、賢沢な源泉かけ流しの湯を堪能できることが自慢だ。

七釜の地名の由来は諸説ありはつきりしていない。昔、入り江になっていたこの地の海岸で塩を炊いた釜が7つあったことや、点在する墳墓が釜のように見えたと



臨濟宗の名刹である退耕山・玉田禅寺は、室町時代に開基したと伝わる。本堂裏には約400年前に造られた「築山式枯山水」の庭園がある。裏山を借景として、岩盤を削った所に自然と生えた杉苔がとても美しい。縁側から望む景色はまるで一幅の絵画のようで、心を鎮めてくれる。



115段の階段を昇った高台にある山宮神社は、集落の氏神様。毎年、秋祭りでは郷土芸能であり、町指定無形民俗文化財の「七釜麒麟獅子舞」が奉納される。



七釜にはお地蔵さんが多い。子どもが授かったという秘話が残る「子授かり地蔵(右)」や、病氣平癒の願いを込めた「おかげ地蔵」は温泉とのゆかりが深い。玉田禅寺前には「六地藏」があり、本尊も安産を守護する「地藏菩薩」がまつられている。

泉質のよい温泉がとうとう湧き出る七釜温泉  
温泉にまつわるお地蔵さんや素朴な自然……  
こたついらすの温泉へ湯治旅に出かけよう！

らともいわれている。

また、水の湧く所を「釜」と呼ぶところから、温泉の湧出によって「釜」という文字が付けられたという説もある。いずれにしても地元の人にとって「釜」はシンボルとなっていて、外湯施設の「ゆ〜らく館」には直径が約1.5メートルもある「釜風呂」が設置されている。そんな隠れた名湯が湧き出る七釜には、温泉にまつわる名所が点在している。第三源泉の前に佇む「おかげ地蔵」は、病氣治癒のお礼参りに訪れる人が多いお地蔵さん。その昔ここに住まいがあり、幽霊が出たので、地藏をまつって鎮めたといわれている。

さらに集落から外れた杉木立の中には「子授かり地蔵」が鎮座。文政5年(1822)に当地の地主が建立したと伝わり、その後、温

## URAROJI TANKEN



玉田禅寺の境内にある「宝篋印塔」は鎌倉時代後期のもので、県の文化財になっている。現在は第二次世界大戦の戦没者の供養塔として追悼されている。



地元の人は「赤い川」と呼ぶ。鉄分の多い土質のためなんだとか。



旅人が古いわらじを脱いでこの木に吊り下げ、旅の安全を願ったという「齋の神」。足にご利益があるとされる。

たかまき城跡  
戦国期、浜坂市街地にあった芦屋城の砦の役割を担ったという。



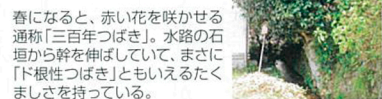
案内役の奥澤さん



家々の間をぬっていくつもの水路が張り巡らされている。家の玄関先や裏口には「川」とも見られ、川が人々の生活と密着していたことをうかがえる。



平成17年にオープンした七釜温泉の外湯施設「ゆ〜らく館」。加水は一切しておらず、源泉を濾過にかけ流して満喫できる。特に七釜の地名に由来する大釜の浴槽が人気！



春になると、赤い花を咲かせる通称「三百年つばき」。水路の石垣から幹を伸ばして、まさに「ド根性つばき」ともいえるたくましさを持っている。

●裏路地探険に参加してみませんか！  
平成23年1月29日(土) 10:00~12:00  
「明延鉦山周辺を歩く」養父市大屋町明延  
\*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキでお申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内に参加ご希望の方へ送付致します。

泉宿に泊まった女性が「子が授かりますように」と願うと、本当に子が授かったという逸話が残されている。七釜では14軒の温泉宿が営業しており、今でもその噂を聞きつけ、宿に泊まりにくるお客さんもいるそうだ。  
集落内には家々の間をぬって小さな路地がたくさんあり、至る所に水路が張り巡らされている。玄関先には野菜を洗ったり、洗濯をしたりする洗い場「川いと」も残されており、とても風情がある。冬場は近くの浜坂漁港で水揚げされる松葉ガニと温泉を目当てに多くの人が訪れる七釜温泉。素朴な佇まいが今も残るこの場所に、湯治旅へと出かけてみてはいかがだろうか。